

各位

kawasaki-info



Vol. 156 (2024年10月発行)

発行：学校法人川崎学園

川崎医科大学総合医療センター

患者診療支援センター 地域医療連携室

「HPV予防ワクチン 誰に、何時、接種すべきか」

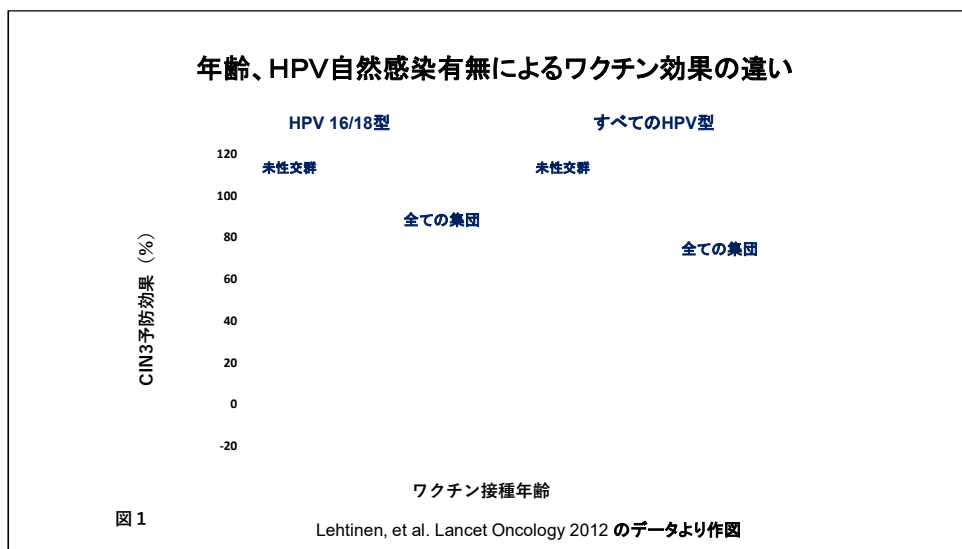
川崎医科大学総合医療センター

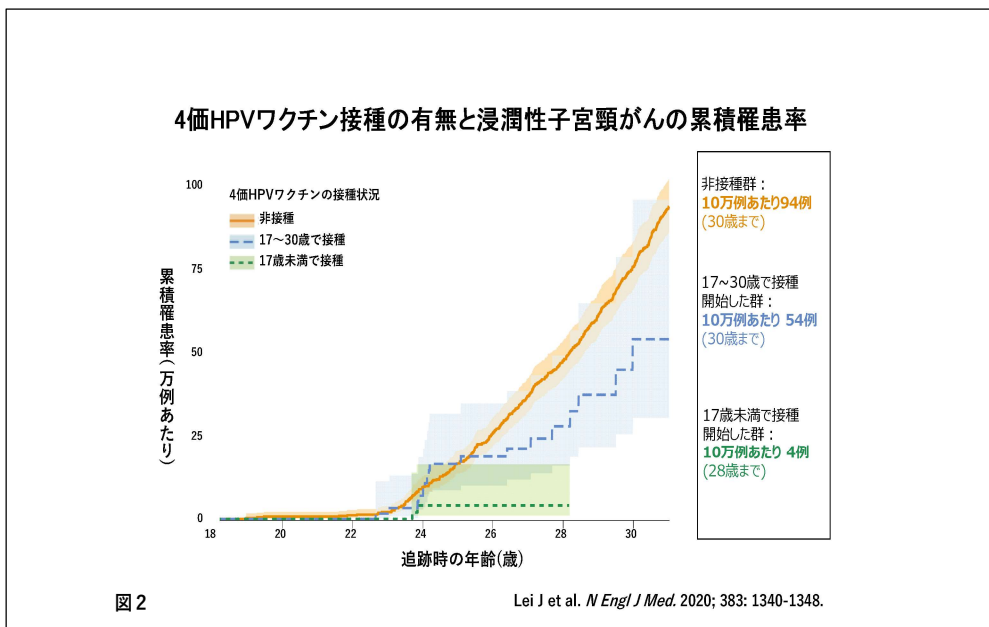
産婦人科部長 本郷 淳司

2022年4月からHPV予防ワクチンの積極的接種勧奨が再開されました。未接種9学年に対するキャッチアップ接種期限も2025年3月末に迫っています。接種率は0.1%まで低迷し、再開後の回復も芳しくありません。本邦の定期接種対象12～16歳女児の接種率はまだ10%台、その殆どが有償になる直前の16歳です。一方、世界での接種は進み、多くの臨床データが明らかになりました。

2価、4価ワクチンの臨床試験であるPATRICIA試験、Future I, II試験にて、ワクチンを性交渉未経験の女児に接種すると、HPV 16, 18型のCIN 3を100%予防するが、全ての女児に対象を拡大すると、その予防効果は一気に40%程度に下がることが示されました。PATRICIA試験のデータからの作図(図1)でもSexual debut前の接種がいかに重要かがわかります。その後、デンマーク、スウェーデン(図2)、イギリスなどから同様のリアルワールドデータが次々と発表されました。HPVは性交渉により皆が感染しますが、自然感染では極めて不十分な液性免疫しか得られず、その不十分な免疫が、のちのワクチン接種による十分な抗体価獲得を妨げます。HPV予防ワクチン接種で初めて抗原認識させることにより、中和抗体として機能する高い抗体価が終生持続するのです。

それではこのワクチンのprimary targetは誰でしょう。答えはsexual debut前の女児です。16歳では遅く、本邦の接種対象年齢を考慮すると12歳になります。幸い本邦では出生後ワクチンプログラムが確立し、その接種率は90%超です。最終のワクチンが11歳での2種混合(DT)ワクチンですが、その次に12歳で小児科クリニックでのHPV予防ワクチン接種が広く普及すれば、わが国の子宮頸癌予防は一気に欧米に追い付けるのです。またワクチン接種とともにsexual debut 3年後からの子宮癌検診の受診を奨めることも極めて重要です。HPVは男性にも様々な癌を起こすため、男児への接種も検討中です。我が国の未来のために、今、正しい理解と行動が必要です。





セミナーのご案内

急性期病院として、地域住民に安心を提供できる医療連携の構築を目指し、病診連携・病病連携の充実を図ることを目的として下記を開催いたします。奮ってご参加をお願いいたします。

『令和6年度 第4回せとうちクリニカル・ベストプラクティス・ミーティングWebセミナー』

日 時：令和6年11月9日（水）14：00～15：30 （入室13：30～）

方 法：オンライン（Zoom）

テ ー マ：「身体変化の前兆に気付こう」

講 師：川崎医科大学総合医療センター クリティカルケア認定看護師 看護副師長 足羽 孝子

対 象：医療・介護・福祉施設の専門職

参 加 費：無料（岡山県医師会生涯教育単位1.0申請中）


申込方法：氏名・施設名・職種・医師登録番号（医師のみ）・住所・電話番号を記入の上、
患者診療支援センターにメール(renkei@hp.kawasaki-m.ac.jp)にてお申し込みください。

↑
ハイフン

ホットラインのご案内


☎ 脳卒中ホットライン ☎

- 24時間365日対応いたします。
- 脳卒中専門医師に直通電話でコンサル
- 「お断りゼロ」を目指します。
- 脳血管疾患の診療依頼の他のご相談も含めてお気軽にご連絡ください。



☎ 循環器ホットライン ☎

- 緊急の循環器疾患に関するお問合せ・ご紹介時に専門医師が直通電話で対応します。



病院理念

1. 医療は患者のためにある
2. すべての患者に対する深い人間愛を持つ
3. 24時間いつでも診療を行う
4. 先進的かつ高度な医療・教育・研究を行う
5. 地域の医療福祉の向上と医療人の育成を行う

学校法人川崎学園 川崎医科大学総合医療センター
 患者診療支援センター 地域医療連携室
 〒700-8505 岡山市北区中山下二丁目6番1号
 TEL 086-225-2133（直通）
 FAX 086-221-1101
 E-mail renkei@hp.kawasaki-m.ac.jp